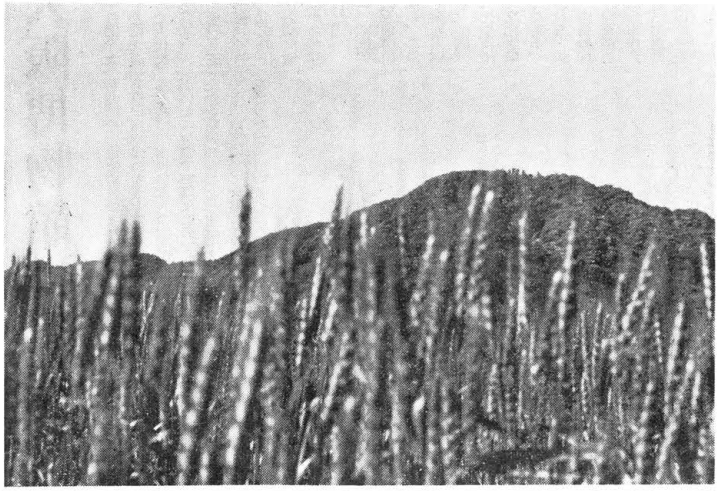
宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話神湊133番
定価一年 送料共500円

神具、装束
結婚式場用品
福岡支社　福岡市吉塚西林寺町　電話㊥九五六六西林寺内
本社　京都市下京区油小路通六条北入　電話京都㊥六〇六〇・三三番　七三三〇・九七〇九番
株式会社　井筒

出穂

紺青なる空の下
さわやかな風に靡く稲穂
今年も豊作だ
宗像平野に稔りの秋は近い



秋季大祭日程きまる
― 圧巻は海上パレード ―

先月号でお報せした秋季大祭々典日程に基き、その後各種の会合を開催した結果、次のような実行計画案が発表される運びとなった。

先ず九月中旬、沖津宮神職を中津宮にお迎えする神事より秋季大祭は開始される。

九月三十日、沖、中両宮奉迎の為、辺津宮神輿が神湊旧宮へ出御される。旧宮に於ては、神湊全区民奉賛の「みなと祭」午前十一時「宵祭」が午後六時斎行され、子供角力、献花等の神賑行事に終日町は賑わうこととなる。

十月一日、午前九時三〇分、玄海洋上に号砲一発鳴り響くや、満船飾の大船団が御座船二隻を先頭に海上神幸を開始する。往年の宗像水軍の威容を目のあたりにするのはこの時である。午前十一時頃神湊海浜に居並ぶ数十の拝観者の歓声の中を御座船は神湊沖に入港する。

ここより陸上神幸となり、沖中両神輿は海洋神事奉賛会より選ばれた奉行の先導により、聳台上に安置され旧宮へ向われる、三宮お揃いの上で、旧宮祭が厳かに営まれ、この時栄ある御座船には御座船状の授与が行われる。小祓の後神輿は再び南々と辺津宮へ向け進まれる。この日、神湊の町並は国旗を掲げ、軒並みに献灯を飾り奉迎することとなっている。此の祭を期して、この町が名実共に神の町となる。

三宮を奉安した聳台は数十人の供奉員を随え、神湊を南北に貫く県道を進まれ、町はずれに待機している御座車に御分乗になり、一路辺津宮へ迎われる。

正午、辺津宮入御、これより三日間にわたり、宗像放生会が斎行される。大祭中は恒例の中学生角力、献茶、弓道奉納等で賑わうこととなっている。

以上が本年度秋季大祭の概略であるが、これから以後、警備、保健、交通について万全を期する為の会合が行われ、文字通り神人和楽の大祭典にするよう努力している。

〝陸上パレード〟
（神湊―大社）
参加されるオーナ
―の方々に

来る十月一日、沖、中両宮の神様は、大島をお発になり、玄海洋上をパレードして神湊頓宮にお着きになります。

この後、お迎えの辺津宮の神様と御一緒に、車で神湊から辺津宮まで陸上をパレードされます。

この陸上パレードに、崇敬各位のオーナーに参加を願って参りました処、年々盛大になりました事御同慶に存じます。

本年は、参加車に付ける供奉車旗、記念品等諸準備の都合上、参加御希望のオーナーは、来る二十日までに、住所、氏名、車種を明記の上当社陸上パレード係まで御申込みください。

当日は午前十時半までに神湊頓宮に駐車場迄お越の上受付へお申出下さい。

人形被いについて

夏越の祭りに際し、皆様から御返送いただきました大被い人形（ひとがた）は、当日神前にお供えし夏越の神事を斎行後、半年の罪、けがれを被って玄海に流しました。

この後、皆様の御発展、無病息災、交通安全をお祈り致しました人形初穂料をお送りいただきました各位には、神納書をお送り致しました。

ここに夏越祭斎行の御挨拶を申し上げます。

九月吉日
宗像神総本宮
宗　像　大　社

崇敬者各位

論説　歴史と伝説

歴史学は資料の正確さを尊び、それによってのみ歴史的事象を確認しようとする傾向が多い。そしてややもすると口誦伝説の類を取り上げようとしない。そのために古事記や日本書紀などの古典の伝承を無視しようとする学者さえあるのは歎かわしい。

一体、歴史的に正確な資料、即ち客観的な歴史資料というものがどれ程あるか。歴史資料なるものは何時の世に於ても記録を残した主体者の主観が表現されているものが多い。

伝説は或る時点に於ける重要な事柄が人々の記憶に残り、それが一定の時間を経過して固定して行くものであって、それが後代の者にとって何等かの意味を持つものが多い。無論、中には荒誕無稽なものもある。後世に何の意味をも持たなくなったり、又は附会歪曲されたためにとんでもない内容に変えられてしまった伝説さえある。

歴史学の軽んずる「伝説」なるものには民衆の中に深く根をおろしているものも多い。民衆にとっては歴史事実よりも伝説の方が生きている場合が多いとさえ云えるのである。例えば信仰の問題であり、愛情の問題である。信仰や愛情の所産は伝説口伝となることが多い。民族の信仰や愛情、又は斗争の問題が物語られて行くうちに固定し、やがて文字が導入されると共に書きしるされたものが古事記や日本書紀等になった。神々の誕生や国土の経営がしるされ、やがて豪国の物語へと続いている。物語の中に活躍する神々は、あからさまともいえる程の行動をし、中には悪神も出現する。しかし、記紀は飽く迄も合理的一点張りだけではすべてを解決しようとはしていない。この壮大な民族の叙事詩の物語ろうとしている点は何か。それは民族の「信仰」であろう。

後世の史家が、特に現代の進歩的歴史学者らが、記紀は歴史書としては価値があるとか無いとか云うのはおかしい。そして唯物史観を振廻して伝承のすべてを無視しようとする態度は間違っている。考古学が急速に進歩を遂げているけれども、考古学は未だ完全に歴史学とは連結していない。その考古学からは古代民族の「心」はまだ判明していない。飽く迄も実証的な態度を以て望むならば、正確な歴史資料なるものは、恐らくは歴史の一部しか伝えないものに過ぎないのではなかろうか。

伝説は、人々の心動きを脈々と伝えているものが多い。特に歴史では解明することのできない民族の信仰や愛情の在り方を、生き生きと我々に教えてくれる。本当は、伝説口誦にこそ真の歴史性があるのではなかろうか。柳田博士以来、民俗の習慣を研究する民俗学が最近ますます盛んになって来ている。習俗の類型は、同じ意味をもつ民族の心を表現する。民衆の中に根を下ろして伝えられた信仰上の習俗が我々の本当の歴史を物語るものではあるまいか。

たとえば、ここに「ふるさとの祭」を取り上げてみよう。誰の心にも理屈なしに受け入れられるノスタルジャとしての祭、これは何人にも無条件に理解出来るであろう。山本五十六元帥が曾て海軍大将になった時に、ふるさとの祭に故郷の福島県に帰り、幼い時と満たすことの出来なかった欲望を達したという話がある。お祭の露店の玩具や菓子を思う存分買ってみたいということだったそうである。山本元帥の心奥に「ふるさとの祭」へのノスタルジャがあった。

こんなことは歴史学の上では問題にしないであろう。しかし、歴史学者が取り上げない民族の信仰や愛情の問題は、実は民衆の生活の上には欠くべからざるものであり、しかも生きているものなのである。

歴史と伝説とは、何処まで双方の関連を持たせてよいかは難しい事であろう。

歴史が示唆するものと、伝説がはぐくむものとの異いがそこにある事に違いない。

古事記や日本書紀、万葉集や風土記には、今に生きる我々にとっても大切な古代人の「心」が述べられている。

× × ×

阿蒙少言

受験の勉強は、最もいやなものである。深夜の燈下、青春をかけての苦斗は、気の毒ながら戦いに勝つためには仕方がない。素質と体力と根性、三者の総合戦力が大学の難関突破の鍵である。安易な道を選ぼうかと、考えた時はその戦力は崩れている。周囲が腰を折るような同情を見せることは大禁物。戦いである以上、単身素手で土俵に上った力士も同様、勝たねばならないのだ。いかなる時代、いかなる道も、しょせん男子の世渡りは戦いだ。○「妻をめとらばオアたけて、みめうるわしく情ある」と　独身男性の歌う理想の女性像に、少々異議をとなえてみる何ことにも例外はある。一部の例外は別として、一道に精進し成功した人物の奥さんに、美人がいない。少くとも、その若い頃は楊貴妃、クレオパトラであったであろうと思わせる程の、みめうるわしき面影を留める奥さんがない。オアたけてと情あるとだけは、極めて望ましいが、みめうるわしくは、はずした方がよいと言ったら、美人の自信十分の筋から抗議が出そうだ。○人間は叱られたり悪く言われて、善くなってゆき厝かれてゆく。力士を叱りつけ大雷を頭上に浴びせる親方はと、相撲道を知り若者を育てる誠意にみちた人だ。大根役者が何かの間違いで、大向うから拍手の賞讃を浴びたら、もう芸道練磨の光明を失う。人間の本質は叱られることを必要とする。○妻君に誘われしぶく那智の滝を見に行った男「何だこれは、上から水が落ちているだけじゃないか、金を払って見にくるとは馬鹿々々しい」と立腹した話。滝見反対でなくても、こんな男性は少くないようだ。大蔵省の発表では、昨今独身男子はよく貯蓄するそうだが、花も実もある人間の成長を望われないように。

（白　雲）

第七五回　宗像大社献詠歌会詠草
八月二十日　於社務所詠草到着順

新潟　太田　乾外
宗像の君にさいづひめの五葉みとりゆたかにつかひまつらめ

宮田　片山　朝子
遠賀　長畑　房江
亡く出でて征きたる海に強み子等何語らえるカメラ向けいて

戸畑　田中　桂一
夜更けし窓の向うの山の上に満月照りて蛙群れ鳴く

戸畑　田中　桂一
病室の壁にこだまする言が怒声亡き父の声となり我をとがむ

戸畑　田中ハツセ
美しき中国服を買ひ求め娘と吾と交互に着てみぬ

宮田　北原　君子
山椒の粒実ゆたかに実りて初夏の陽差にするどく光れり

吉留　白木うめの
我がひざに抱かれし孫の唇にばあちゃんは牛の匂ひすると云ふ

南郷　中村　幸
ほけほけと長崎の駅に近づきし吾胸に強く原爆の香うつる

宗像　井上陽之助
一人寝る今宵淋しもひそかに犬の遠ぼえ夢うつゝにて

津屋崎　麦野　時雄
鮮緑の高原の草鹿食し阿蘇の赤牛のどかに遊ぶ

勝浦　永島　計七
老いの身の衰え互に語り合う友の白髪の一きは目の冴び

香椎　織田　橡雨
秋つぐる蛍ぞなつかしぢろもの皿に盛りトマトは珠玉の如くにてはむを忘れてしばし賞でるし

大井　村山　幸生
かへりみる人なきまゝに薄うめてはひなる芹の花を包へる

大井　木原ふさ子
蝙やかにおはぐろ飛びし噴井辺に濯げばしばし暑さ忘るゝ

名島　久保　房江
蝉しぐれ暑さをきそ公真昼日に百日紅の花ざかりなる

東郷　有吉　春子
暑ければ日暮れて帰る道の田に満毒する人の隆ぶこゑけり

沖島　山人
胃を切りて五年のいのちと医師は言えど残るひと月越えて生くらし

津屋崎　占部　由久
眩めく花を咲かせて次々に空を彩る花火大会

田熊　鷲頭かつ代
健やかにある幸よわが干しシャツがすがすと陽に乾きゆく

福間　松尾　豊
朝の水そゝげば満ちゆく給水塔に霧は亜びて顔を映せり

東郷　藤崎　辰子
老い淫む眼いたわしえびの知曲りて屋を眠ります母

名島　吉田　信夫
泣きながら手を振り送る幼子に土産約して手を振り返す

香椎　桜井　ツ子
夏まひる孤りのおもひ癒らずて黒き揚羽の音もなく過ぐ

宮田　片山　一
霧雨の雫く木下に親猫は仔猫の若毛なめて愛しむ

村山田　吉田佐市郎
湯治客人影うすれ俵山盆会せまりし湯町淋しき

福間　田中　嘉三
木から木に飛び移りたる鬼ごっこ悪童今に幾人残る

宗像　八波　五月
お遊き会「もみじの葉っぱ」をおどる孫の「とし子」が一番上手に見えし

久留米　篠田太郎坊
明けては暮れ何のために生きいるやと思いつゝ老ゆるは寂しかりけり

福岡　江崎　琴子
かさゝきの渡すかけ橋わたるらむたなばた星をまつる宵

福間　森　八蔵
秋の月許嫁の山の上にあり隈なく照らすみのる宗像

赤間　原田　リノ
六十年働きつゞけし夫なれば休めと神は脚を病まし き

小倉　坂本　信夫
照りつける水田に乙女はたらけり遊覧バスを気にもとめずに

大井　安部　重郎
棄て苗の育ちカンナの荒土に真紅に咲きて夏に驚れり

大井　安部　静子
皿に盛りトマトは珠玉の如くにてはむを忘れてしばし賞でるし

大井　村山　幸生
かへりみる人なきまゝに薄うめてはひなる芹の花を包へる

大井　木原ふさ子
蝙やかにおはぐろ飛びし噴井辺に濯げばしばし暑さ忘るゝ

名島　久保　房江
蝉しぐれ暑さをきそ公真昼日に百日紅の花ざかりなる

東郷　有吉　春子
暑ければ日暮れて帰る道の田に満毒する人の隆ぶこゑけり

沖島　山人
胃を切りて五年のいのちと医師は言えど残るひと月越えて生くらし

九月のまつり

九月一日　風鎮祭　午前十時

かぜしずめのまつり。この時期は農作物にとって最も重要な時であり、稲の結実前に暴風、その他の被害がないように祈願を行うまつりである。

台風シーズンにあたって各地方でそれぞれ風を鎮める祭りが行われている。当社では風鎮祭に地元農家の人等がお詣りをして、この祭典に参列をする。

一五日　月次祭　午前十時

二一日　宮地嶽神社大祭

旧現社宮地嶽神社の秋季大祭で当宮より職員が献幣する。

二四日　秋分祭　午前十時

——皇靈殿遥拝式——

春分祭に対して、この時期に行われる旧制国祭日秋季皇霊祭である。宮中皇霊殿では、天皇親から歴代の天皇の皇霊をまつる祭儀が行われる。当社では宮司以下全職員によって皇霊殿遥拝式が行われる。

この日は彼岸の中日にあたる盆祭りとあわせて、わが国では三度の祖霊をまつる大事な機会である。

今月の言葉

「慎(ツツシ)みの一字こそ眼(マナコ)なれ」

過失は一寸した心の油断より生ずる突発的な災である。この油断が往々にして尊い人命を傷つけることにもなる。神を敬い、身を慎み、過を毎い改めて二度と繰り返さないよう努力することが大切である。

「あやまちを深く悔いはやその日より、我が慎みの守りとなる。」

沖ノ島神宝（国宝）

大阪博物館に出陳

八月六日より九月三十日迄、大阪市教育委員会主催のもとに大阪市立博物館（大阪城内）で古代文化の特別展が行なわれている。

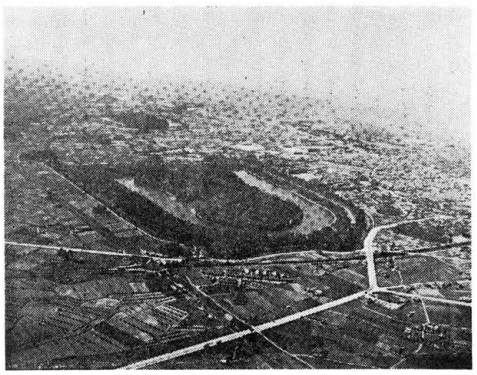
「古代豪族の遺宝」倭の五王時代の黄金、鉄、（こがね、くろがね）と題され、五～六世紀の出土品を中心に全国から代表的な遺宝が出品され、宗像神社からも沖ノ島神宝数点が出陳された。

倭の五王時代とは、仁徳、反正、允恭、安康、雄略天皇頃の時代（五世紀代）を指し、この時代は古墳時代の中でも最も古墳文化が盛んなときであり、中国、朝鮮など大陸の進んだ文化や技術を次々に受入れ、日本の文化水準が急速に発展した時代でもある。

特に宗像大神が鎮座される、筑前宗像の沖ノ島、大島、田島の地は、これら大陸文化導入の要路として早くから開け、日本の古代文化は、この沖ノ島、大島、田島のルートにより発達を捉進したと云っても過言ではない。

十数年前、神島沖ノ島の学術調査により、二万数千点からなる神宝が出土し学界を驚喜せしめたことも、一面に於ては大陸文化導入の要路であったことを実証したからである。また沖ノ島は、かかる時代の代表的な日本最大の祭祀遺跡であり、まさに倭の五王時代の国家的な祭祀をそのまま伝えるものである。出土した神宝はいずれも他にその類例を見ぬほど豪華であり、当時代の遺宝中の遺宝であると共に、古代日本人の宗像信仰がいかに畏敬で熱烈なものであったかを窺い知ることが出来よう。

その意味に於て今回特別に出陳を行ったが、将来多くの人々にこの神宝を知って頂くと共に、宗像大神の神徳発揚の為に、来年から大阪、東京など主要都市で次々に沖ノ島神宝を中心に、「筑前宗像大社の秘宝展」を開催する計画である。



（写真は仁徳天皇陵）

「東郷元帥と山本五十六展」

「三笠艦羅針儀」と元帥書を出品

今回毎日新聞社主催により「東郷元帥と山本五十六展」が小倉、熊本、久留米の各井筒屋百貨店で開催された。

この展覧会に当社所蔵の「三笠艦羅針儀」と東郷元帥書の「神光」が出陳され、「東郷元帥と山本五十六展

沖ノ島避難港工事

現地打合会行われる

＝完成は数年後に＝

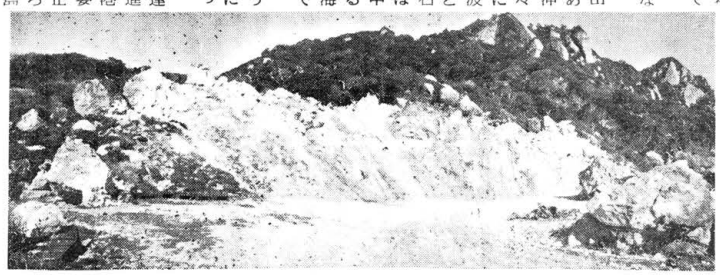
去る八月十日、本年度沖ノ島漁港修築工事に関する打合会が、沖ノ島の現地に於て行われた。これは毎年工事始めに当り、関係者間でとり行われるものであり、本年も、県水産部施設課員、並びに社会教育課員、大島村助役、大島漁業協同組合長、沖ノ島出漁仲間大船頭、沖ノ島工事施行業者、及び当社職員が渡島した。

本工事は、沖ノ島避難港修築の目的を以て、昭和二十六年以来全額国庫補助、県の施工監督の下に行われている事業である。当初は約十年程で完成の予定であったが、名にしおう玄海の荒波は、机上の想像を遥に越え、営々として築き上げられたテトラの防波堤は押寄せる大波に崩壊し、大きく工事の進捗を阻害して、計画の変更を余儀なくし、遂に今日迄、工事延長の止むなきに至っているものである。然し、度々の試練により、現地の実状も深く認識され、工法も又、改良されて漸く基礎も固定し、東、約二〇〇米、西、約三〇〇米の防波堤が出来上り、避難港としての機能を一応果し得迄に至っている。本年度は、東の防波堤を更に十五米延長する工事が行われる予定で、一応、それで港としての外観は完成し、その後、補修、手直しが加えられて、ここ数年のうちには全工事完了の予定だそうである。

ところで、本工事には多量のコンクリートが使われているが、その骨材は、ことごとく神社が無償で提供した沖ノ島の岩石を粉砕使用したものである。

今日迄の採石量は厖大なものであり、その為に、島の南側、波止場右手山腹の採石場は、地肌もあらわに、美観を損い、沖ノ島を古くから知る人々は、変容する島の面影に慨歎している。又、防波堤の基礎となる中詰石として使われた海岸の岩石の量も、夥しく、現在はそれもとりつくし、海中の転石を拾い上げている状態であるが、これら海中の岩石は、魚にとっては絶好のすみかであり、これらの魚しょうを失うことは、冬期、沖ノ島に出漁する大島漁民にとっては非常な痛手である。

こうした神社、漁民達の犠牲の上に本工事は進められているが、避難港という公共的施設を必要とする時代の要請には止むを得ないところであろう。神社側としては、島の変容を最小限に喰い止め、神島沖ノ島の尊厳性をいつ迄も護持して行く心算である。



（写真は沖ノ島採石場）

〃盛大なみなと祭りに〃

――九月三十日神湊で――

去る八月七日、本年度秋季大祭海上神幸に伴う行事として、みなと祭り実行打合せ会が大社斎館に於て行われた。

参会者は、地元（神湊）漁船代表、旅館組合代表、神湊の上、中、下、東の各区長等関係者で、久保宮司の挨拶に続いて、みなと祭りを行うにあたっての具体的な問題について意見交換があった。

従来、神湊地区一帯の全体的な祭りがない事と、本年、草崎半島神湊の最勝地に大凡の完成をみた頓宮（神様の御休憩所）に因み、関係者はみなと祭りに熱意を示している。

当社の海上パレードが西日本でも指折りの行事となっている為、今年も多数の人出が予想されている。

秋季大祭の前夜祭として行われる神湊頓宮祭を盛大な〃みなとの祭り〃にする為、数々の行事、催物等の話し合いが進められている。

本年度秋季大祭海上神幸、並びにみなと祭りの日程は左記の通りである。

祭典日程

九月三十日
- ○午前十時　辺津宮代御
- ○午前十一時　みなと祭り
- ○午後六時　宵祭

十月一日
- ○午前九時三十分～十一時　海上神幸（海上パレード）
- ○午前十一時　神湊頓宮祭
- ○午前十一時半　神湊頓宮御発輦
- ○正午秋季大祭。

明日にかける〃道〃

宗像の変貌する宗像

我が国の自動車生産台数は、西独をしのぎ世界第二位となった。この生産能力は、同時に国内の道路事情を深刻なものとし、数々の交通問題を誘起している。さてここに紹介するのは、ここ数年の内に変りゆく郡内主要道路の青写真である。

北九州から、福岡へ伸びる一級国道三号線は、その中間地帯の宗像郡を南北に二分し、郡内に市、県道は、この三号線に交叉する。

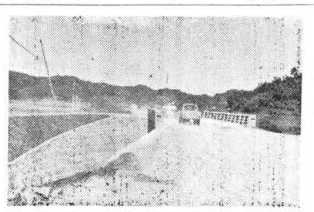
現在、この国道三号線とは別に北九州から福岡まで二本の路線が予想されている。

一つは県道として既に工事が着々と進捗している海岸路線で、芦戸大橋――芦屋――宗像――福間――古賀――香椎――福岡へと通する若松――芦屋――福間線。しかし全線の土地の收容が済んでいない個所も多く、未だ路線がどちらを向くか未決定の地域も多い。

この新路線は若松から芦屋海岸の松林を抜けて、垂見峠から宗像郡に入る。垂見峠から釣山、高向部落を抜け、玄海ゴルフ場の脇を寄切り、釣川河口の江口から勝浦浜迄が現在決定している。勝浦から山際を通るか、或は海岸沿いに走るか、各種の案が検討されている。神湊江口間では既に橋築工事に着工している。

一方、国道三号線に平行して、宗像を東西に貫く宗像バイパス線が計画されている。

三号線の城山峠から分岐するバイパスは、県道直方――宗像線を寄切り、森林都市に入る。この後、宮田から原町、畦町から再び白水峠で、現在の路線に連絡する。そして手光から福間まで福間バイパス（正式には福間局改）がこの九月に完成する。



宗像バイパスは、他の路線と平面交叉で、一部は、立体交叉になる。既に着工している個所もあるが、完成予定は、四、五年先とされる。

北九州から福岡まで、現在の三号線は、各バイパスに替るというのが高速時代の要請に応える対応策で、門司から北九州バイパス――戸畑バイパス――宗像バイパス――福間局改――古賀バイパス――香椎バイパス――福岡と連り、現在所要時間の半減化が見込まれている。

しかし、これは、現時点での話で、五年先の完成、加えて本格的なモーターリゼーションの増加を考えると、やはり狭隘さを感じないわけにはいかない。

又、新路線誕生と共に旧路線は格下げされる事が予想され、国から県に移管される。しかし一町村の手に維持管理が移譲される事も可能なわけで、このような路線の修理、保全が新な問題を呼びそうである。

宗像バイパスの完成に伴って、現一級国道は赤間――村山田線（仮称）と云うローカル線となるわけである。

宗像郡の道路は、凡そ二十四線ある。一般県道と主要道とに分けて考えられ、一般県道の全長は十一万六千米、主要道は三万二千四百米に及ぶと言う。

主要道と云うのは、現在使用頻度の高い、所謂主要な道路で、三線がこれになっている。前述の若松――芦屋――福間線。直方――宗像線（赤間西鉄バスセンターから、武丸の正助さんで有名な吉武を通って直方市に通ずる路線）飯塚――福間線（福間町西郷川畔から飯塚市へ抜ける路線）この他、交通量を跨る路線として、福間――宮司橋、宗像――玄海線の参拝道路の二線がある。

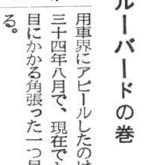
宗像大社への参拝路は、今年中に釣川沿いの舗装が丸二屋橋まで延長される。一方、東郷駅東口からの舗装部分が大井橋まで延長されまれている。

この後、釣川堤防の改修工事と併行して舗装が進められるとの事である。

埃の立たない参拝道まで、あと二、三年、郡内の舗装率三十パーセント。遠い遠い遥な道と言えそうである。

話題の新車をみる（四）

ニューブルーバードの巻



去る八月十五日、日産から在来のブルーバード一三〇〇を全面的にモデルチェンジしたニューブルーバード一三〇〇が発表、発売される事になった。

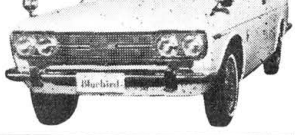
このニューブルーバードにふれる前に、過去のブルーバードの歴史を眺めてみたい。それが今日のニューブルを決定づける要素となって来たからだ。

ブルーバードが華々しく国産乗用車界にアピールしたのは、昭和三十四年八月で、現在でも時折お目にかかる角張った一つ目型である。

この車種の堅牢さと経済性が爆発的な人気を呼び、昭和三十八年九月までに十八万余台が販売された。

昭和三十八年九月、全面的モデルチェンジを行い、角型スタイルから丸型スタイル四つ目と変更、これが改良されながら本年七月まで販売されたわけである。

日産のブルーバードに対して、トヨタは昭和三十二年七月にコロナSP10型を発表したが、ヒットせず、昭和三十四年十月PT10型モデルに変更、更に昭和三十六年RT20型を発表した。このRT20型が現在に至っているのであるが、1500ccの大型エンジンの搭載によって、日産ブルーバードとの差をつけて来たのである。昭和三十九年九月、トヨタはPT40型を発表、室内の広さ、居住性、内装、加速性能、耐久性の勝れている事を強調、加えて価格を同程度とした為ブルーバードを追い越して首位に立ってしまったのである。



この首位奪回を目差して、改良設計されたのが今回のニューブルーバードと云うわけである。

発表前、1600か1300かと巷間に話題を呼んだが、スカイラインの売行きが好調で、月販三〇〇〇台ラインにのせている関係上、競合する事を懸念して1600を見送ったと見るのが大方の意見である。

さて、ニューブルーバードのフロントはスカイラインとサニーを加えて二で割ったような感じで、リアは、スカイラインに似ている。全体としてなら長く低くなった型で、日産ではスーパーソニックラインと呼んでいる。

旧ブルと比較すると、全長で120ミリ、全幅で70ミリ長く、全高で40ミリ低く、最低地上高では逆に15ミリ高い車体薄型になっている。車重は100K軽く、最高出力は72馬力（6000回転）となって100馬力のアップになるが、10Kの軽量化を入れると旧ブルとは段違いの加速の良さが期待できよう。この為最高速度も145Kと5K伸び、登坂能力も向上、回転半径は20センチ縮少して四、八mとなった（つづく）

便り

拝復

残暑の折柄、貴社益々御清栄の段大慶に存じ上げます。

先般、御依頼申し上げました貴社御神馨早速に御送付賜りまして誠に有難うございました。

所員一同神徳の下に尚一層業務に精励致す所存でございます。

不取敢御礼迄

出光石油化学（株）大阪営業所

キス釣り

残暑のキスは秋のハゼと並んで小もの釣りの代表的なもので簡単に誰でも釣れる魅力がある。

しかし、キスは元来臆病で敏感な魚でもあるから、なるべく、浅場では、人影のない静かな場所がよい。海水浴場のボートを借りて手釣りとしてもよいし、腰のあたりまでつかって竿で振込んでもよい。仕掛けは出来るだけ小型を選ぶ。道糸無染ナイロン二号。先糸銀鱗一号、三十糎。餌は袖五・六号。錘三号。片天を使用して餌が錘より上に在るようにする。これは、キスは必ず海底より五～十糎上の所を游ぐ習性に合わせるためである。餌はゴカイ、本虫。喰いが活発なときは先を短かめに切る。釣期は大潮廻りの時。潮が止まる時は餌付きが悪い。

キスは白身の上品な魚。塩焼、刺身、酢物等味は最高である。

釣行の帰りに釣を楽しみ、帰宅しての手料理も亦興趣がある。

宗像大社御用　綜合印刷
有限会社　大和印刷所
宗像郡宗像町東郷　電話　宗像局2027　有線277－1番

宗像伝説　其の七十四

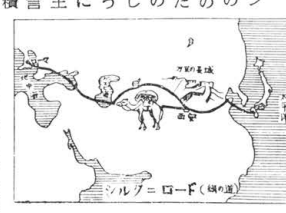
瑠璃碗異聞

昭和二十九年より、昭和三十年まで、四回にわたる宗像神社沖ノ島発祀遺跡の調査は神社の由緒を解明すると共に吾国古代文化の優秀性を世界に語って、余りあるものがあった。

その第一回、第二回調査に於て、調査団は、八号遺跡と称している遺跡区分の中央小岩より、淡緑色を帯び、気泡がかなり見受けられる一片のガラスを発見した。種々研究の結果、これは型ガラス技法による碗の一部である事が判明し、本邦古墳時代に出土例の稀有なこの発見に調査団は驚喜した。

鬱嶺（バミール山脈）の中に「石の塔」と呼ばれるところがある。ここは、東方の隊商と西方の隊商がお互いの物資を交易する所として、古くより知られていた。

ペルシャ、ササン王朝の頃、この「石の塔」で東の隊商が持ち帰った瑠璃碗ほどその後の東洋を喜ばしたものはなかろう。西の隊商の話によれば、これは王家の出目の品と言う。略駝の背に積まれたこの瑠璃碗は路を東へ東へとたどった。鬱嶺を過ぎ流沙（タクランカン砂漠）へ幾日も砂嵐が続いた。隊商はその間略駝と共に伏して、ただ風の過ぎ去るのを神に祈った。太陽が橙色に現われ、それが黄色の空気を吹き払うと、隊商の群は再び動き始めた。気の遠くなるほど暑い日が何日も続いた。飲料水が欠乏し始めた頃、流沙も尽き、シルクロードへと道をとった。



絹がこの街道を通って西欧にもたらされたように西方からも種々の珍稀なものがこれを通って東洋にもたらされた。

途中刃好をさけて一行は敦煌に到着した。中国西域のこの小国家には、漢帝国より西域長史という地位の高い役人が派遣されていた。隊商の一行は役人の前に相応の贈り物をして、亦異邦の珍宝を披露した。その時、この役人の目が、瑠璃碗をとらえた。瞬間彼は今まで見たことの無い新しい技法のこの器を買いとる決心をした。一日も早く故国に帰りたい彼の憶いが、この淡い緑色のガラスのきらめきに、ふと柳色を想い起させたのかもしれない。隊商は交換の品として、役人の傍にはべる金色の髪をした碧眼の女人をのぞんだ。女は、化粧そしていないが、薄い青銅で作った指輪をはめ、碧玉の首飾りをかけ、青玉の耳環によって、美しく飾られていた。この商談は成立し、瑠璃碗は役人の手に納まった。この器により、役人の胡地における生活はどのくらい慰められたか判らなかった。ある日には、故郷の緑の河辺を偲び、またある日には青緑の衣を羽織った妻や子供等の上を想った。かくすること数年、北に往く雁と共に帰還の令書が彼の下にもたらされた。帰りなん、いざ！数十頭の略駝は荷物を満載してゆっくりと立ち上った。瑠璃碗もまた再び東を指して進んだ。万里の長城を眺め、玉門関を過ぎると、景色は柔いものとなった。役人が夢にまで描いたように、空は紺青に晴れ、道の両側に植えられた白楊や柳の木の梢を吹く風は爽やかであった。旅すること数旬の後、都へ到着した。西の城門より街衢に歩をうつすと、一行はただならぬ気配に驚いた。道の両側には旌旗が林立し、儀杖兵が厳然と立ち並び、歓迎の鼓は百雷の落つるが如く鳴り響いた。その旗の間から遥に望めば、東西にのびる街道の中央に白く輝く鳳輦が望見される。（つづく）（H）

×

×

宗像大社献詠 俳句作品集 (五十七)

冷房の仏間の経のやゝ長く　折尾　野村十助

夕立に肩よせ合いて他家の軒　津屋崎　白石百合蔵

ヘリコプターの灯も混りおり星月夜　久留米　篠田太郎坊

帚木のいよ〳〵まろき月の影　大井　吉田和子

はゝきぐさ植えてあるなり旅の駅　大井　吉田房子

夕凝ぐ漁火の小川螢飛ぶ　大井　安部重郎

秋近き思ひ小庭の物の色　大井　木原ふさ子

木洩れ日の底まで透きし噴井かな　京都　大島祐美

貧乏そぐさい病むいとまな蓋涼し　田島　白雲山人

女房のやぶいり留守は弥陀ばかり

マルクスが日本に生まれていたら

出光佐三一問一答シリーズ ⑬

一方、現代に生きるわれわれにとっても、この「人間疎外」という、人間が人間以外のものに隷属させられている現象は、あらゆる方面に見られます。たとえば組織にはめこまれた人間、機械に使われる人間というような大衆社会現象として現われ、解決を迫られています。

そこで私たちの質問も、まずこの「人間疎外」という問題からとり上げていこうと思います。

マルクスは、資本主義社会における人間疎外、言い換えれば、人と物とが逆立ちした状況を正常な姿にもどすためには、それを生み出す社会の根本の仕組みを変革しなければならぬと言います。これを人間の解放の第一条件と考えるわけですが、出光の場合「黄金の奴隷になるなかれ」とか、物質尊重主義に対する人間尊重の唱道・強調をしておられることは、目標としてこのマルクスの言う人間疎外からの解放と同じではないでしょうか。ところで店主の場合、金や物から人間が解放されるには、具体的にはどのようにしたらよいと考えておられますか。

出光　金や物から人間が解放されるには、どうしたらェいか、ということだが、さっきも言ったように、日本民族のあり方、日本の歴史そのものが、すでに金や物を第二義的に見て、心の結び合いを重んじてきているんだ。そして、そういう民族性が出来上がっているということなんだ。

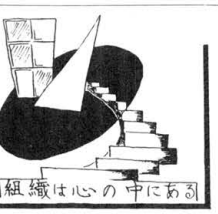
しかしながら、明治以後、物質文明が入ってきて、日本も外国色に塗りつぶされてきているので、そういう中で、どうして金や物の奴隷になずに行くか、ということは確かに大問題だと思う。

そこで出光のあり方を具体的に話して、金や物の奴隷にならずに行ける実例を示してみよう。

10出光には資本家の搾取がなくて全員が経営者である

出光　まず、出光には資本家の搾取がない。創業のときに日田さんが資金を恵まれて、「この金は返済しないでよい、利子もいらない」と言って、なにもとっておられない。それから、ぼく自身も資本家の横暴に反抗して出発しているくらいだから、搾取などするわけがない。これはだんだん話すが、そういうわけで、資本家の搾取がないという点では、マルクスの狙っているように、資本主義の悪いところが、完全にはじめから取り除かれておるということなんだ。

その次に、出光では、従業員全部が経営者であると言える。従業員とぼくとの間に区別をつけていない。その一例として、創業のときから、ぼくは店員と同じように、給料をとっているが、これはぼくが資本家ではなかった、ということを表わしてはいないかな。もちろん給料がいくらか違うとか、名前の呼び方が店主と従業員とかいうことはあるが、仕事の上ではお互いに独立して、ぼくはぼくなりの仕事をしておるし、従業員は従業員なりの仕事をしておる。言い換えれば、各自の受持の仕事の上では、お互いに自主独立の経営者だということだ。全部が従業員であり、経営者であるとも言える。出光の若い人が、「私は経営者です」と言っているそうだが、それは皆が権限の規定もなく、自由に働いているということであって、ぼくはこういう形が理想だと思う。



質問　そこで、ちょっと理屈を言いますが、もちろん経営に加わっておるという意味では、すべて経営者なんですけれども、ふつう経営者という場合には、経営の指導を行ない、その経営に対して最高の責任をとる者という意味があると思います。

たとえば軍隊を例にとりますと、皆軍人である。軍人という点では、皆、変わりないのだけれども、その中にファンクションとして将軍があり、参謀があり、下士官がおり、兵隊がいるというぐあいに、それぞれ分担がある。それぞれが自分の立場で軍人としての任務を果たしている。その場合の機能を果たしているものが、経営では経営者だということになります。

出光　ぼくが言っているのは、経営学で言う経営者を言っているのではない。企業の中に社長、事務、営業部、経理部というような組織があるのは当然だ。けれども、組織の一人一人皆が、自分が責任をもってやっておるその中に組織、経営者の心があるということだ。事業経営をやっているものは、ぼく一人ではなく、全員がそのことについては、君たちも知っているように、開店後数年たってから、随分ぼくが悩んだ問題だ。ぼくは独立自営したが、店員はぼくの独立自営の陰に犠牲になって搾取されているのか、という疑問が出た。いろいろ考え悩んでいるうちに、店員を自由に働かせて、各自の仕事の上は独立させよう、ということで解決がついた。これが出光に現在でも権限の規定がない、ということなんだが、経営学で言う経営者とか、使用人という観念は、出光にはないよ。形式的な組織としては、社長も専務もあるが、お互いの心掛けは、皆が全責任をもって経営しているということだ。

11組織は心の中にある

出光　そこで組織の話が出たついでに、簡単に話しておくが、ぼくは組織や、規則は形式であって、ほんとうの組織、規則は各自の心にある、ということを言っている。これをすべきか、すべきでないか、やってよいか、悪いかなど、各自がみの中で判断していかなければならない。したがって組織や規則は、できるだけ少ないほうがよいということになるんだ。それでぼくが組織は「無をもって理想とする。」というと、これは十年くらい前、或る青年会議所で話したときなんだが、或る人が組織なしで物事ができますかと言うんだ。ぼくは組織が全然要らない、と言っているのではない。組織はあっても、形式的の組織はなるだけ小さくして、ほんとうの組織は心の中に持つようにしなければならない。そうすると、非常に人間が少なくて済む、ということを言っているんだと言ったら、わかったような、わからないような顔をしておった。そうしたら、しばらくすると、また誰かが立って、組織なしじゃやっていけませんでしょう、という質問をする。三回ぐらい同じ質問が出たね。組織は形式的なものであって、心の中に組織を持っておれば、非常に少数な人で、少数精鋭主義の力強い形が出来るんだが、この呼吸が、今の経営学でやっておる人にわからないようだね。

組織は形式として必要だが、ほんとうの組織や規則は自分の心の中にちゃんと持っていて、形式的な組織に縛られてはいけない。そして、これができるのは日本人だ。外国の経営は「和」ということがないんだよ。外国では権利を主張して、お互いが対立しているから譲り合うということはないだろう。そこで、その対立している人を組織でつなぐことになる。だから日本人に言わせると、人数ばかり多く要して、しかも力は弱いものである。日本人にとって組織は形式的なものであって、お互いが心でつなぎ合っている。それが日本の和だ。両者の違いは口では説明できないが、実際にやってみると、非常な差が起こる。組織中心の外国の行き方はたくさんの人が必要で、しかもお互いに権限を主張して対立しているので、力は弱い。日本では、組織にとらわれずに一人一人仲良く団結の力を発揮するから、人間は数が少なくても非常に力が強い。（つづく）

経営とは何か

PFドラッカー

「経営者です」と言っているのが普通なのである。

ところが広告の効果についての研究によると非常に成功をおさめている製品に一ドルを注入することは、成功していない、あまり売れていない製品に二ドルを注入する、という点が見受けられることである。

ところが成功をおさめている会社は、定期的、組織的に自分の製品、手法、会社の機構を常に再検討して、自らの過去の実績にとらわれないように注意をはらっている。そして過去に属するものはなにか、現在のものはなにか、将来のものはこれが一層有望だというものをはっきりと把握している。もっこれはすでに衰微しつつあるやり方だ、製品だ、あるいはこれはいまと同じぐらいの資源の投入をすれば勢いに乗り、これぐらいのものはこれだけ入れれば非常な大きな結果が出る、といった判定を常に下しているということがある。

実業家というものは、製品については女性が男性に対するロマンチックな考え方を持つと同じように、製品について非常にロマンチックな見方をしているものである。

ところが、広告・宣伝費というものを持っている場合、売れない八〇%の製品について、大部分の広告予算費を使ってしまい、逆に売れるものについてはなにも広告しなくても売れるという考え方をしているのが普通なのである。

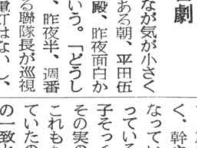
さらに一般的に見られるアメリカの現象は、もっとも優秀な研究開発の技術家たちが、売れゆきがよくなりつつある製品の改善に、たいへんな努力をはらっている十倍の結果が出るという。

ぼくは、経営学で言う経営者を言っているのではない。企業の中に社長、事務、営業部、経理部というような組織があるのは当然だ。けれども、組織の一人一人皆が、自分が責任をもってやっておるその中に組織、経営者の心があるということだ。事業経営をやっているものは、ぼく一人ではなく、全員がそのことについては、君たちも知っているように、開店後数年たってから、随分ぼくが悩んだ問題だ。ぼくは独立自営したが、店員は

砂糖の話

田中重雄

砂糖の歴史



プリンセン・ヘヤリッと氏は、前記の如く四二四年に法顕和尚がシャワに立寄った頃には、赤糖の製造法くらいはしっていたのであろうといっている。正確なことはわからないが、コーチシナの糖業がこの時代から存在していた事実に鑑みればジャワの糖業とても漢時代には在存したものと思われる。

かくして中世紀頃には回教文化によって、東南西の各アジア諸国を始め、地中海沿岸諸国、アフリカ沿岸諸国等に甘蔗糖業は拡大された。殊に地中海沿岸諸国の糖業市場はヴェニスに設置され、ヴェニスの砂糖貿易は15世紀前半においてはその頂点に達したのである。当時ヴェニス人は精糖法の新式を発明し、この発明者は10万クラウンの賞金をとったとのことである。ヴェニス商人は暴利を貪っていたが、トルコの勃興と新航路の発見によって、西暦1453年頃には衰頽一路をたどった。

トルコの勃興は、すなわち地中海の東海を支配していたトルコ族は、蒙古の大軍が同地に現われるや、小亜細亜のアナトリヤに逃れて蒙古大汗国の附属国となっていたが、ペルシャの蒙古汗国即ち伊児汗国の滅亡後、再び擡頭してオットマン帝国を樹立し、チムールの死後、更に勢を加え1453年にはコンスタンチノープルを獲得して東ローマ帝国を滅ぼし、小亜細亜におけるゼノアの植民地を征服して各種の制限を加えたため、同地方でイタリー諸都市との貿易関係は著しく阻害され、同地方の砂糖は衰微してしまった。トルコはその後、更に南下し1517年カイロも征服してエジプトまで占領したので同地の糖業もまた没落した。

笑えぬ喜劇

このように皆んなが気が小さくなっているのに、ある朝、平田伍長にあうと「軍医殿、昨夜面白かったんですよ」という。「どうしたんだ」ときくと、昨夜半、週番上等兵の仇名のある聯隊長が巡視にまわってきた。電灯はないし、蝋燭は倹約しろと命令しておいたのに、一カ所蚊帳の中がポーッと明るい。そっといってみると蚊帳の中でなにか盛んに食っている。この野郎、窃み食いしてるなと思った聯隊長、かんかんになって「おいッ、そりゃあなんかッ」と怒鳴った。おったまげた兵は蚊帳中で飛び起きて不動の姿勢をとり、押し問答のすえ、ついに刃傷沙汰に及んだことがあった。まったく笑えない喜劇である。

宗像藪庵先生百話

南方華やかなりし頃

宗像太郎坊

「はいッナンカであります」「なにッなんかときいているのだ」「はいッ、ナンカであります」「馬鹿ッ、なんかとはなんかッ、よし、明日夜が明けたら俺のところへこい」と、かんかんになって帰って行った。横で聞いていた平田伍長は、笑うに笑えず情けなくなってしまった。

ナンカとはジャックフルーツともいい、楕円形の長さ六〇センチ重さ二五キログラムに及ぶ大果で、重いため枝先になるのではなく、幹や大枝のつけ根のところになっている。中に数十個の実が入っているが、ドロップスという菓子そっくりの上品な香りがする。その実の中に種が入っているが、これももったいないと茹でて食っていたのである。世の中には偶然の一致ということはあるもので、セレベスでも日本将校がホテルのボーイに、庭のナンカを指さし、「あれはなんか」ときくと「はい、これを取締る者は他にはいない。道を挟んで向うに窪家があったので連れて行って、こそこそ話していると姉もういう商売をやっているという。子供達を稼がせて、その上まえをはねて生きているとは、この母親は鬼婆だなと思った物してはいかんので五十銭やって帰れというと、いいからお邪魔になれという。最後の線を越さねばよいだろうと見てみるとこれは如何に兵隊の褌をつけている。

ルマ・パンジャン

ははあ、こいつあれだなと思ったので、声ふるわせて「オオオ前ハ、コココレカ」といって、左掌で筒を作り、右掌でこの上を「ポン」と叩いてみせると「やあ」といって、にこりうなずいた。時々、家の中を覗くようなので、誰を探しているのかというと「カチャンマタ（眼鏡）イルカ」というははあ、眼鏡をかけている将校というと主計だな、あの野郎、昨晩お邪魔になりおったなと思ったが今いないというと、困ったような顔をして帰らない。あたりには人影もなし、週番士官殿自ら悪いことをしていたら、これこそ安泰。これを取締る者は他にはいない。

我楽苦多告知板

◎残暑、賑やかな神苑の蝉時雨。何と啼いているかと議論沸騰。

A嬢「つくづく好いちょる」

B嬢「こかこーらこかこーら」

C嬢「欲うしい、つくづく」

何が欲しいか、彼氏か、などとわいわいがやがや。

◎T君とS君とが沖釣りに出掛けた。T君数尾、S君一尾の成果。ところが社務所に帰ってから、S君が弁舌爽やかにまくし立てた。

そして遂に、戦果は舌先三寸で逆転したというから恐ろしい。T君の口惜しがること。